

こうじ谷好晃 NEWS

たによしあき

vol. II-4-2



本会議場における代表質問 (H26.12)

平成26年9月定例会一般質問(9/19)

世界一多忙 日本の教員!!

—教員の専門性を活かした評価基準を!—

問 OECDの調査において世界一多忙という日本の教員の勤務時間については、事務作業や部活動の指導時間が含まれる等幾つかの要因が考えられる。教育現場に密着した労働環境と教員の専門性を十分に活かした評価基準等の施策が必要と考えるが、所見を伺う。

答 総労働時間については、正規教員以外の割合が高い国が入っているなど、一概に比較することは適当ではない。教育の自己効力感が低いことが懸念されているが、本県の場合、学校と家庭、地域の関係がよく、教員に対する信頼が極めて高いという評価を得ている。現場の教員の意見を十分に反映した教育環境を整え、170名超の教育名人といった教員の得意とする専門的な力を持ち寄って、学校組織全体の教育力を高めることを大切にしたい。

その他の質問事項

○戦争遺跡の意義と保存 等

予算特別委員会(9/30)

旧アクアトム運用への課題は

問 ①県と敦賀市が無償で譲り受ける日本原子力研究開発機構の旧PR施設「アクアトム」は市が施設周辺のにぎわいづくりを進めており、市の言い分をしっかりと担保しながら、県益にかなう活用を求めたい。県と市の間に禍根を残してはならない。

②2015年度運用開始に向けた課題を問う。

答 ①敦賀市と十分な協議を行い、エネルギー研究開発拠点化計画の推進と市街地活性化に寄与するものとして、十分な活用ができるよう努めたい。

②運営方法や経費負担などを市と早急にすり合わせた。15年度初めに譲り受け、改修を行う。

平成26年12月定例会代表質問(12/2)

知事四選に向けての重点的な政策課題について

問 知事は、来春の知事選に出馬する意向を表明した。知事は今期、北陸新幹線、舞若道、中部縦貫道といった高速交通体系を中心に、長年の懸案に見通しをつけ、福井県政がまさに新たなステージに飛躍できる環境を整えた。「県民幸福度日本一」という評価も踏まえながら、県内市町との連携を一層進めるとともに、県民の「ふるさと力」を十分に引き出すことを求めたい。今後、知事が意欲をもつ重点的な政策課題は何か、決意と所見を問う。

答 福井の「ふるさと力」の結集に向け、私自身が先頭に立ち、県としても政策の総合化をより一段と高めて、県民の期待に応えていきたい。特に、福井と大都市との競争条件を均衡させる交通基盤の整備、エネルギーの将来の姿を福井県が描きリードしていくこと、福井の次の時代の活力を支えるさまざまな分野の人材育成の強化、そして、福井国体の成功を期し、県民の力を結集し、次の世代のパワーにつなげていくことなどの重要課題に果敢に挑戦していく。

地方版総合戦略 県どう創意工夫

問 ①地方創生法に基づく地方版「総合戦略」の策定に当たり、県独自の創意工夫を問う。

②増え続ける認知症の県内における実態把握と対応を問う。

答 ①地方創生は、人口構造を国家としてどう変えるか、という国にしかできないタイプの仕事と、地域の特性を生かして実行する政策が運動してはじめて成功しうる。福井独自の施策としては、地方の努力が実を結ぶような政策をどうつくるかが課題。各市町と県が個々に努力している移住政策の窓口一体化や、若者、女性が多様な生き方の中から福井を選択してくれる方策づくりを検討する。

②県内の認知症の数は4月現在で約2万6千人。5年前より2割増。早期治療による病状改善、悪化防止が重要と考え検診の強化に取り組んでおり、本年度は約4万3千人の高齢者を対象に検診を実施。今後は特に予防に力を入れ、県独自の予防プログラムの作成普及を進める。

その他の質問事項

○原発事故に対する国の責任について 等

県民の生活が第一、元気で誇りうる福井県を!

もとより、私・こうじ谷は、議会こそ「言論の府」と確信しており、定例会ごとに毎回欠かすことなく、質問や提言による論陣を張ってきた。以下、そのテーマだけを報告します。

—2期目・この4年間 こうじ谷好晃の県議会における主な質問と提言—

たによしあき

■社会にやさしく、政治につよく

- ◎四選へ向けての知事の政治姿勢について(H26.12)
- ◎原発事故に対する国の責任について(H26.12)
- 「戦争遺跡」の意義と保存(H26.9)
- ◎知事の政治姿勢について(H26.6)
- △県政課題と知事の政治姿勢について(H26.2)
- 嶺南振興と知事の政治姿勢(H26.2)
- △「特定秘密保護法」と知事の政治姿勢(H25.12)
- △国の出先機関の地方移管(H25.6)
- △ふるさと知事ネットワークの活用(H25.6)
- ◎知事の政治姿勢について(H25.2)
- △「希望学」と福井県政(H24.12)
- △知事ネットワークの提言(H24.6)
- 震災がれき処理の受け入れについて(H24.2)
- ◎県の重要プロジェクトと知事の政治姿勢(H23.12)

- 「日本海側拠点港」選定に向けて(H23.6)
- 「地域主権3法」成立と福井県(H23.6)



県政報告会

H26.11

■働く人にやさしく、産業・雇用につよく

- ◎伝統産業の振興について(H26.12)
- ◎「福井経済新戦略」の見直しについて(H26.12)
- ◎人事委員会勧告について(H26.12)
- △県内高校生の就職(内定)状況について(H25.12)
- ◎県の農林水産行政(H26.6)
- ◎舞若道開通と観光・産業戦略(H26.6)
- ◎原子力行政と雇用について(H26.6)
- 敦賀港の「物流」と「人流」の活性化(H25.6)
- ◎県の林業行政(H25.2)
- ◎県の経済・雇用対策(H25.2)
- △敦賀港振興の全体像(H24.12)
 - (1)「港湾」整備と「みなと」賑わい創出
 - (2)クルーズ客船の誘致対応
 - (3)県の行政体制について

- 敦賀港の活性化(H24.9)
- ◎TPPと農林水産業の振興(H23.12)
- ◎県の経済新戦略について(H23.12)



H26.6 雇用と労働行政についての街頭演説(白銀町交差点)

■ふるさとにやさしく、必要なインフラにつよく

- ◎米価下落と県の支援策(H26.12)
- 敦賀港の利・活用促進(H26.2)
 - (1)コンテナ貨物取扱量の増加について
 - (2)クルーズ船の誘致について
- 舞若道の全線開通に向けて(H25.12)
 - (1)嶺南と嶺北の一体化 (2)「海湖と歴史の若狭路発信事業」
- 笹の川水系の整備促進(H25.9)
- 嶺南の活性化-産業団地の整備について(H25.6)
- ◎県都のまちづくりについて(H25.2)
- 県内の里地里山保存と「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ」会合招致(H24.9)
- 北陸新幹線「敦賀車両基地」について(H24.9)
- △北陸新幹線の敦賀延伸について(H24.6)

- △敦賀港湾の整備について(H24.6)
- 原子力防災について(H24.2)
 - (1)県原子力防災計画の見直し (2)原子力防災総合訓練



H26.8 若狭路さとうみフェスティバル(若狭町)

■人にやさしく、福祉につよく

- ◎危険ドラッグの規制と、条例化への取り組みについて(H26.12)
- ◎認知症の増加と県の対応(H26.12)
- 地域医療の将来像と県の責任を問う(H25.9)
 - (1)医療改革について (2)介護政策について
- 健康行政について(H25.6)
 - (1)がん対策 (2)風疹予防接種
- ◎県の医療・福祉行政について(H25.2)
- 「福井県保健医療計画」について(H24.9)
- △社会保障と税の一体改革と県のかかわりについて(H24.6)



H26.2 子ども発達支援施設訪問

■心にやさしく、教育・文化につよく

- ◎財務省の「40人学級復活案」と本県の見解を問う(H26.12)
- 国際教員指導環境調査にみる世界一多忙・日本の教員(H26.9)
- △教育委員会制度改革と本県の対応(H26.6)
- ◎県の教育行政について(H26.6)
 - (1)中高一貫校 (2)教育研究所の在り方と機能強化策
- 福井ふるさと文学館の開設(H26.2)
- 世界少年野球福井大会と嶺南の活性化(H25.6)
- ◎当初予算案と教育行政を問う(H25.2)
- △県の文化財行政について(H24.6)
- 記念の年・アニバーサリー事業について(H24.2)
 - (1)「古事記」完成1300周年と本県 (2)敦賀-長浜鉄道開通130周年等記念事業
- 教育行政について(H23.9)
 - (1)全国学力テスト (2)児童・生徒の不登校対策



H26.8 武生高校(定時制)教育実習室視察

■環境にやさしく、エネルギーにつよく

- △エネルギー研究開発拠点化計画-旧「アクアトム」の利活用を中心に-(H26.9)
- ◎県の労働行政について(H26.6)
- ◎エネルギー政策について(H26.6)
- 原子力行政について(H25.12)
- ◎行政とエネルギー政策(H25.2)
- △エネルギー政策と原子力行政(H24.6)
- ◎エネルギー政策と原子力行政(H23.12)
- 原子力行政を問う(H23.9)
 - (1)原子力安全庁(仮称)の創設について (2)若狭湾沿岸の津波堆積物調査について
- 「エネルギー研究開発拠点化計画」の変容について(H23.6)



H26.9 予算特別委員会

嶺南・敦賀の活性化なくして 福井県の発展なし!



H26.9 県水産試験場視察(敦賀市浦底)

こうじ谷 好晃

情熱・誠意・信頼

で歩む活動スナップ



H26.8 新幹線敦賀駅周辺視察



H26.4 ゆうあい倶楽部の物流会社研修に同行(滋賀県内)



H26.3 高速交通体系の先進事例視察(高崎市役所)



H26.3 公害と環境についての調査・視察(足尾銅山)



H25.9 台風18号災害現場視察(小浜市内)



H25.3 嶺北木材林産協同組合視察(福井市内)



H24.12 ゆうあい倶楽部介護施設訪問に同行



H23.11 日中友好議員連盟にて訪中、華士国際学校訪問(江蘇省江陰市内)



H23.10 中郷古墳群発掘調査現場視察

〈後記〉

政治を国政や県政という大枠で見れば、困難な問題が山積しているが、身近に人の世の姿を見れば、そこには、病気・障害・高齢など、人間生身であるが故の不安があり、痛みや悲しみがある。また、仕事や職場のこと、住まいのこと、暮らしのこと、そして、子育て、教育など誰もが何らかの悩みを抱えながらも、真剣に生きているのが現実の社会である。

政治は、この姿をしっかりと見つめ、的確な対応が求められている。

一方、近年、国政、地方を問わず、各種選挙における投票率の低迷は大いに懸念されるところだ。

「政治とは情熱と判断力を用いて硬い板に穴をあけるような行為」—これは、ドイツの社会学者、経済学者であったマックス・ウェーバー(1864~1920)の名言である。

このウェーバーの檄は、まさに今の日本政治にもあてはまる。情熱だけでは眼前の政治課題を容易には解決できないことを、戦後、一連の政変や政治改革などを通じて我々はすでに経験してきた。

冷静な判断力に基づき、現実を変える具体的なプログラムを編むこともまた、必要なのだ。

もっとも、この言は政治家のみならず、同時に有権者にも向けられているのではないだろうか。

私も、このような認識を持って、今さら愚直な「書生論」かと揶揄されようが、個々人の努力と責任の範囲を考え、政治の責任と信頼という課題を自らに問い続けて行きたいと想いを新たにしている。
(こうじ谷好晃)